真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7 年度

事務事業評価マネージメントシート

作成日　令和8年3月13日

事務事業名	日本一のいちごのまちPR事業	担当課・係	総合政策部　秘書広報課　シティプロモーション係
政策名 No	6　「魅力づくり」～市民の力アップ！～		【重点】総合計画重点事業
施策名 No	1　都市ブランド戦略の推進	事業期間	毎年度実施　（開始年度令和２年度～）
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略	関連するSDGs･DX	
法令根拠			
事業内容	①日本一のいちごのまちブランド力の向上事業 ②シティプロモーション推進事業 ③地域おこし協力隊活用事業（いちごのまち）		
求められる成果	①「いちご王国栃木の首都もおか」として、質・量ともに日本一を誇るいちごのまちの認知度が向上し、ふるさと寄附事業におけるいちごの申込みが増加している。 ②様々なメディアでの情報発信により、本市及び本市の魅力が広く認識され、いちご狩り等の来訪機運が高まっている。 ③地域おこし協力隊による真岡のいちごの魅力発信の結果、いちご生産者の協力が得られるようになっている。		
前年度記載「今後の方向性と課題への対応・改善策」	真岡市の「いちごのまち」としての魅力を引き出し、地域全体でいちごを通じたまちづくりに取り組む。		
事業概要・施策実施状況	①令和元年度～PR用統一名刺の導入およびノベルティによるPR、令和4年度デジタルマーケティングの取組み・真岡のいちごのデジタル広告を開始、「いちご王国栃木の首都もおか」PR看板設置、令和5年3月特設サイト「いちご王国栃木の首都もおか」を開設、令和5年度冊子「Veryな街真岡」作成、令和6年度冊子「日本一のいちごのまち真岡」作成、いちごフォトスポットの設置、「いちご王国栃木の首都もおか」PR看板のリニューアル、令和6年10月インスタグラム「もおかのいちご」を開設、令和7年度フォトスポットリニューアル ②令和4年度「真岡市シティプロモーション指針」を策定、栃木県東京事務所でのPR開始、令和4年12月「いちご王国栃木の首都もおか」宣言、PR看板の設置、令和7年度「第2次真岡市シティプロモーション指針」を策定、プレスリリース配信サービス（PR TIMES）によるPRを開始 ③令和7年4月いちごのまちコーディネーター着任		

1.現状把握の部（1）事務事業の目的と指標

ア）手段（主な活動・Do）

令和7年度実績

①これまでの認知度向上の取組みに加え、「いちご王国栃木の首都もおか」の認知度を高めるため新たなクラウドファンディングに取り組んだ。
1.PR用統一名刺の導入およびノベルティによるPR　2.インスタグラムの運用
3.冊子によるPR　4.いちごフォトスポットの設置
5.PR看板の設置　6.クラウドファンディングの実施　7.各種イベントへのブース出展
②様々な団体等と連携するとともに、WEBメディアを活用してPRに取り組んだ。
1.特設サイト「いちご王国栃木の首都もおか」のコンテンツのアップデート
2.プレスリリース配信サービスを通じて、真岡のいちご及びいちご狩り情報を発信
3.真岡市アンバサダーとの連携　4.栃木県東京事務所でのPR活動の実施
③事業者による伴走を通じて、地域おこし協力隊との個別相談や担当職員の打ち合わせを実施し、隊員が抱える課題を把握し適切な支援を行った。
・いちごのまちコーディネーターが、真岡のいちごの魅力や生産者のこだわりなど「日本一のいちごまち」ならではの情報を発信した。

イ）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）の推移

	名称	単位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11
①	日本一のいちごのまちPR企画数	件	8				
①③	PRイベント参加日数	日	9				
①③	情報発信するSNS媒体	種類	4				
①	デジタル広告	種類	3				
②	PR TIMES配信回数	回	6				

ウ）対象（誰を、何を対象にしていますか）

※人・自然資源等

市内在住者・市外在住者

エ）対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移

	名称	単位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11
①②	真岡市の人口	人	75,890				
①②	観光客入込客数	人	3,004,1				
			67				

オ）意図(この事業によって、対象を成果に導くための方向性どう変えたいですか)

・市民のシビックプライドの醸成が図られる。
・知名度の向上、ブランド力が高まることで、「選ばれる都市もおか」となる。

※PR TIMESページビュー数：１回あたりの平均ビュー数　1,035PV

自治体の一般的なビュー数は200～300PVと言われている。

カ）成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移

	名称	単位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11	目標値 R11
①	「いちごのまち」とイメージする市民の割合	%	77.3					
①③	PRイベント参加人数	人	1,818					
①③	SNSのフォロワー数	人	10,174					
①	デジタル広告クリック数	件	1,439					
①	特設サイトページビュー数	件	84,940					
②	PR TIMESページビュー数	件	6,214					
②	PR TIMES転載サイト数	件	177					

（2）総事業費(決算)の推移（単位：千円）

			R7	R8	R9	R10	R11
事業費 財源内訳	特定財源	国・県支出金	811	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
	一般財源		1,960	0	0	0	0
事業費合計			2,771	0	0	0	0
コスト対前年比				0.0	0.0	0.0	0.0

2.1次評価の部　※原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1)目的妥当性評価

①政策体系との整合性：事業の目的（対象・意図）は市の政策体系（結果）に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当ですか？

【評価理由】
「いちご王国栃木の首都もおか」を宣言し、日本一のいちごのまちをPRすることで、知名度向上・シビックプライドの醸成が図られブランド力の向上につながる。

■ 向上の余地はある。　□ 向上の余地はない。

②公共関与の妥当性：なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？　民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？

【評価理由】
知名度向上・ブランド力の向上は、市が行う事業である。

■ 市が行わなければならない。　□ 市以外でも可能である。

③対象と意図の妥当性：事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？

【評価理由】
適切である。

■ 対象・意図を見直す必要はない。　□ 対象を見直す。

(2)有効性評価

④成果の向上余地：事務事業の成果は出ていますか？事務事業のやり方を見直した結果、向上余地があるか判断してください。

【評価理由】
栃木県は「いちご王国」として認知が高いが、真岡市が「日本一のいちごのまち」であることの認知度は低い。

■ 向上の余地はある。　□ 向上の余地はない。

⑤類似事業との統廃合・連携の可能性：類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？　ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？

■類似事業と統合・連携ができる　【類似事業名】
□類似事業と統合・連携ができない　【評価理由】　移住定住やふるさと寄附事業と連携することで、各事業において相乗効果が期待できる。
□類似事業はない

(3)効率性評価

⑥事業費の削減余地：成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできますか？実施方法の適正化によりコスト削減をできますか？

【評価理由】
事業を実施するための最小の経費である。

■ 削減余地はない。　□ 削減余地がある。

⑷事務事業の課題(Check）事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、予算上の課題点、費用対効果向上のための課題
・ふるさと寄附事業におけるいちごの申込が減少したことから、市外における認知拡大と生産量日本一を誇る美味しいいちごを伝える必要がある。
・市外向けには、デジタル広告による認知拡大とリアルイベントでの試食等の体験により、本市のいちごの購入意欲を高める必要がある。

⑸今後の方向性と課題への対応・改善策（Action➡Plan）
□現状維持　■やり方改善　□目的拡充　□目的絞り込み　□統合　□廃止

①ただちに取り組むべきこと
①②令和8年度は、都内で開催されるリアルイベントや、デジタルマーケティング思考に基づくデジタルツールによる情報発信により、真岡のいちごの認知度向上に取組み、ふるさと寄附のいちごの申込数を増加させる。
③地域おこし協力隊の活動における課題を把握し適切な支援を行う。

②長期的な計画で検討すること
①②クラウドファンディングや#ふるさと納税3.0、ふるさと寄附事業を通じて、真岡市および真岡のいちごのファンを増やす。

（6）改革・改善による期待効果

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		■	
	維持			
	低下			

3.2次評価

（1）2次評価者として判断した今後の事業の方向性

□廃止　□休止　□目的絞り込み
□目的拡充　■事業やり方改善
□予算削減　□予算増大
□現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

（2）その他2次評価会議で指摘された事項

（3）改革・改善による期待効果

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		■	
	維持			
	低下			